

《担当者名》○丸川活司 幸村 近 田中真樹 吉田 繁 遠藤輝夫 坊垣暁之 松尾淳司 近藤 啓 江本美穂 高橋祐輔
高橋祐司 山崎智弘 小野誠司 沖野久美子

【概 要】

臨地実習に臨むに当たり、基本的な知識と検査技術および患者や医療スタッフとのコミュニケーションについて、臨床検査技師としての総合的な能力の向上を図る。

臨床実習病院において、病院検査室の見学と臨床検査業務の補助を体験する。学内の講義、実習で得た知識や技術が臨床現場でどのように活用されているのかを確認する。臨床検査全般に対する理解を得たのちに、各専門分野をローテーションし検査業務を体験することで、その分野に対するより深い理解と専門性を得る。あわせて、検査室全体のマネジメント知識を得ることで臨床検査技師および医療人としての即戦力を養うことを目的とする。

【学修目標】

臨床検査技師としての基本的な実践技術及び施設における検査部門の役割を理解し、患者との適切な対応を学ぶ。また、臨床現場（救急、病棟、在宅等）や健診、衛生検査所等での役割と業務や、施設内のチーム（栄養サポートチーム、糖尿病療養指導チーム、感染制御チーム、抗菌薬適正使用支援チーム等）の役割と実施内容を理解するとともに、医療チームの一員としての責任と自覚を養い、適切な接遇マナーを身につける。

医療人を志す学生として良識とモラルを身につけるとともに、臨床検査技師として不可欠な基本技能を修得し、また、医療チームの一員として臨床検査技師の役割と責任を持たせることを到達目的とする。

- 1) 臨地実習を開始する前に、これまで修得した臨床検査の知識及び技術を理解し身につける。
- 2) 厚生労働省「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」に記載された、臨地実習において学生に実施させるべき行為を実行し、検査目的や結果の解釈を説明できる。
- 3) 社会人としての良識を身につけるとともに、医療人としての倫理感を身につける。
- 4) 臨床検査の現場に身を置き、臨床検査技師として不可欠な臨床検査の基本的な実践技術を習得する。
- 5) 医療現場において必要な、医療スタッフや患者とのコミュニケーションを身につける。
- 6) 提供する臨床検査情報の意義、精度管理の必要性、そして検査研究の重要性を認識するために、疾患へ興味を持ち、検査情報より病態解析へのアプローチを身につける。
- 7) 医学・医療の専門職そして医療チームの一員として積極的に取り組むために、医療の中における臨床検査および臨床検査技師の役割と責任を知り、医療人としての自覚を持つ。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 15	総合臨床検査技術演習 臨地実習前技能修得到達度評価	・総合臨床検査技術演習の意義と概要 ・技能修得到達度評価についての説明 ・臨床実習で求められる臨床検査の技能演習 ・3年次までに修得した臨床検査について、知識と技術の確認 ・総合臨床検査技術演習の終了後に臨地実習前の技能修得到達度評価を行なう 【臨地実習前技能修得到達度評価項目】 1．生理学的検査 ・標準 12 誘導心電図検査 ・肺機能検査(スパイロメトリー) 2．形態に関する検査 ・末梢血塗抹標本作製 ・末梢血塗抹標本の観察（白血球分 3．血液型判定 ・ABO血液型検査 ・RhD血液型検査 4．尿沈渣検査 ・JCCLSの指針に基づく標準的手法による ・尿沈渣標本の作製 ・鏡検法-顕微鏡操作 ・鏡検法-鑑別とカウント	遠藤輝夫 幸村 近 田中真樹 吉田 繁 坊垣暁之 松尾淳司 丸川活司 近藤 啓 江本美穂 高橋祐輔 高橋祐司 山崎智弘 小野誠司 沖野久美子
16	臨地実習 (生理学的検査)	・生理検査学 ・臨床検査総管理学	臨床実習指導者

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
61 ()		・医療安全管理学 【実施させる行為】 ・標準 12 誘導心電図検査 ・肺機能検査(スパイロメトリー) 【見学させる行為】 ・ホルター心電図検査のための検査器具装着 ・負荷心電図検査 ・肺機能検査(スパイロメトリーを除く) ・脳波検査 ・超音波検査(心臓、腹部) ・足関節上腕血圧比 (ABI) 検査 ・消化管内視鏡検査 【見学させることが望ましい行為】 ・運動誘発電位検査 ・体性感覚誘発電位検査	
62 () 180	臨地実習 (検体検査)	・病態学 ・公衆衛生学 ・血液検査学 ・病理検査学 ・尿・糞便等一般検査学 ・生化学検査学 ・免疫検査学 ・遺伝子関連、染色体検査学 ・輸血、移植検査学 ・微生物検査学 ・臨床検査総合管理学 ・医療安全管理学 【実施させる行為】 ・血球計数検査 ・血液塗抹標本作製と鏡検 ・尿定性検査 ・血液型検査 ・培養・Gram 染色検査 【見学させる行為】 ・臓器切り出しと臓器写真撮影 ・迅速標本作製から報告 ・精度管理(免疫学的検査、血液学的検査、病理学的検査、生化学的検査、尿糞便等一般検査、輸血検査、移植検査) ・メンテナンス作業(免疫学的検査、血液学的検査、生化学的検査、尿糞便等一般検査) ・検査前の患者への説明(検査手順を含む) ・チーム医療(栄養サポート、感染制御、糖尿病療養指導) ・その他採血室業務(採血行為を除く) 【実施させることが望ましい行為】 ・血栓・止血検査 ・尿沈渣検査 ・交差適合試験 ・不規則抗体検査 ・同定・薬剤感受性試験 ・HE染色や特殊染色検査 ・病理標本観察 ・細胞診標本作製と鏡検 ・血液ガス分析検査	臨床実習指導者

【授業実施形態】
面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨地実習指導者評価 60%

実習記録および報告書 40%

【教科書】

第3学年までに使用した教科書も使用する。

臨地実習前技能修得到達度評価に関する資料は別途を配布する。

「臨地実習マニュアル」を配布する。

【備考】

授業の詳細は、厚生労働省「臨床検査技師養成所指導ガイドライン」の改訂を受けて変更される場合がある。

【学修の準備】

- ・教科書で演習内容に該当する内容を事前に読んでおくこと。（80分）
- ・演習で学習した内容を復習し、要点をまとめ口頭で説明できるようにすること。（80分）
- ・「臨地実習マニュアル」を熟読し、必要な準備を行うこと。（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP1)生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

(DP2)臨床検査に必要な知識と技術を修得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP3)保健・医療・福祉の各分野の役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚とそれを実践するための専門性と協調性を身につけている。

(DP4)臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

(DP6)臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

【実務経験】

沖野久美子（臨床検査技師）、遠藤輝夫（臨床検査技師）、幸村 近（医師）、田中真樹（歯科医師）、藏満保宏（医師）、吉田 繁（臨床検査技師）、坊垣暁之（医師）、丸川活司（臨床検査技師）、近藤 啓（臨床検査技師）、高橋祐輔（臨床検査技師）、高橋祐司（臨床検査技師）、小野誠司（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床では欠かせない基本的手技や技術の習得のため、医療機関での実務経験を活かした専門分野に携わる教員が実践的指導を行い、不足している知識や技術は個別に指導する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している